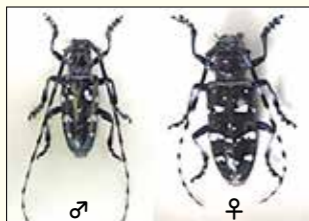


国際保護連合 (IUCN) に“世界の侵略的外来種ワースト100”に選ばれた  
**《ツヤハダゴマダラカミキリ》の生息が確認されました**

令和4年2月までに8県21市町から発見情報!!  
 (宮城県・福島県・茨城県・埼玉県・富山県・愛知県・兵庫県・山口県)

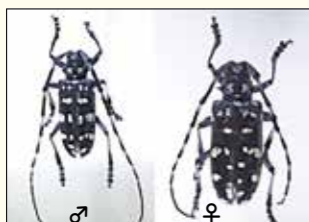
在来種のゴマダラカミキリとの見分け方

**外来種 ツヤハダゴマダラカミキリ**



- 「前胸背」  
・白紋を持たない
- 「上翅基部」  
・顆粒状突起を持たない  
・白紋を持たない  
・小楯板は白色軟毛に覆われない

**在来種 ゴマダラカミキリ**



- 「前胸背」  
・中央に2つの白紋を持つ
- 「上翅基部」  
・顆粒状突起を持つ  
・白紋を持つ  
・小楯板は白色軟毛に覆われる



**産卵痕**  
寄主植物にすり鉢状のかみ傷を付け、そのくぼみに1個ずつ産卵する。



**成虫の脱出孔**  
直径10～15mmのまん丸い孔を開け脱出する。



**フラス**  
幼虫は、白く粗い木屑状のフラスを排出する。ただし、ふ化直後は黒褐色の細かい糸クズ状の糞を産卵痕から排出する。

**外来カミキリムシに関する注意喚起**

近年、外来種のカミキリムシによる樹木の被害が全国で確認されています。特に次の2種類は樹木の内部に入り込み、枯れさせてしまうため、注意が必要です。

	被害樹種
クビアカツヤカミキリ	サクラ、モモ、スモモ、ウメ、ハナモモなど
ツヤハダゴマダラカミキリ	アキニレ、カツラ、トチノキ、ヤナギ、エンジュ、カエデ、ポプラなど

**●被害の特徴**

どちらの虫も幼虫が樹木中に侵入した穴がある(クビアカは4mmほど、ツヤハダはすり鉢状)。その穴からフラスと呼ばれる糞と木くずの混じった茶色いものが排出され、樹木の根元に溜まります。もし外来カミキリムシやその被害木を発見された場合は、産業経済課耕地林務係まで、ご連絡ください。

問い合わせ先 産業経済課耕地林務係 (32) 3113

**《クビアカツヤカミキリの被害》**



**フラス(幼虫の糞と木くず)**  
ひき肉状に連なって出てくることが多いですが、春先や枯れた木からはパラパラとまとまらずに出てきます。

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されている害虫です。この虫の幼虫は樹木の内部に入り込んで木を食い荒らし、枯れさせてしまいます。被害が確認されている樹木はサクラ、モモ、スモモ、ウメ、ハナモモなどです。

クビアカツヤカミキリが侵入した樹木には、4ミリほどの穴があいており、その穴からフラスと呼ばれる糞と木くずの混じった茶色いものが排出されて、樹木の根本に落ちていきます。



**脱出孔**  
成虫は細長い穴を幹にあけて出てきます。



幼虫が木の中に多いと、フラスが地面を覆ってしまうこともあります。



**成虫**  
5月の末から7月まで見られます。6月に多く出てきます。体の大きさは触角ぬきで3～4cmです。



**雑草イネ(赤米)対策について**

町内の水田では、雑草イネが多く発生し、米の等級低下や収量低下などが問題となっています。作付する水田で雑草イネを発生させないためにも万全な対策をお願いします。

**●雑草イネの特徴**  
 ・栽培しているイネよりも出穂が約1週間早く、丈が高い(写真1)。  
 ・一部のもち米のように籾の先が赤く、粉がらを取ると赤い(写真2)。  
 ・籾が落ちやすく、ほ場に落ちて、発生源になる。



写真1



写真2

**●7月以降の防除対策**

・籾の先端が赤く色づいたイネや丈の長いイネを8月10日頃に株ごと刈り取る。  
 ・稲刈り等の作業は、雑草イネの未発生ほ場から実施する。

※今年度より県やJAと連携して、雑草イネ発生水田の調査を実施します。地域全体で雑草イネ対策を実施するため、発生が確認された場合、ご連絡することがあります。ご理解いただくとともに防除対策実施を、よろしくお願いします。

**問い合わせ先**

産業経済課農政係 (32) 3113